



第579号

令和8年5月1日

千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会  
公益財団法人  
〒102-0075 千代田区三番町2  
電話 03 (3261) 6700  
FAX 03 (3261) 6712



https://boen.or.jp/  
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 中村 勤  
発行人 槻木 新二



墓苑の花「紫蘭」

花言葉

「あなたを忘れない」

特定非営利活動法人 JYMA 日本青年遺骨収集団 2名  
(注2) 東部ニューギニア遺骨収集団15名の構成  
一般社団法人 日本戦没者遺骨収集推進協会

アナ諸島戦没者遺骨収集団」の解団式に当たり、「硫黄島」においては、例年4回の遺骨収集を実施していますが、昨年9月の噴火により参加団員の安全確保等の観点からやむなく2回の派遣を中止いたしました。今般は、噴火活動の影響が残るなかで少人数による収容作業を行い、皆さんが地中深くにある御遺骨を丹念に探し出していただきました。また、マリアナ諸島においては、昨年5月に発見されたテナン島の集団埋葬地において、厳しい暑さの中で収容作業を継続し、現地の方々の御理解を頂きながらの様々な作業を行っていただきました。いずれも大変な御苦労であったと拝察いたします」と労をねぎらった。



# 千鳥ヶ淵の夜桜



後方に都心のビル群と東京タワーを望む (画像提供 一般社団法人千代田区観光協会)

## 千鳥ヶ淵緑道の桜と戦没者墓苑

恒例の「千代田のさくらまつり」が3月5日から4月22日にかけて行われ、千鳥ヶ淵戦没者墓苑沿いの千鳥ヶ淵緑道は多くの花見客で賑わった。全長約700mに及ぶ同緑道の約260本の桜が3月28日に満開を迎え、夜間はライトアップもされた。

闇の中に浮かび上がる夜桜は、花びら一枚一枚が際立ち、幻想的な美しさを湛える。

あるテレビ番組の調査によると、桜の木一本(樹齢32年のソメイヨシノ)に咲く花びらの枚数を一枚ずつ集計したところ、およそ59万3345枚であったそうだ。無数の花びらは何かを語りかけているかのようである。

帰国は果たしものの親族等が不明で当墓苑に眠る約37万余柱のご遺骨と、海外の戦場で帰国を待つ約112万柱のご遺骨は、桜の花びらに姿を変え、家族や戦友と再会を果たしているだろうか。美しい桜を愛でるとともにこの千鳥ヶ淵戦没者墓苑と海外の戦域に未だ眠る英霊たちに想いを馳せ、改めて感謝の誠を捧げる機会としたい。

## インド及び東部ニューギニア戦没者遺骨引渡式

2月25日、当墓苑で厚生労働省主催によるインド及び東部ニューギニア戦没者遺骨引渡式及び遺骨収集団の解団式が陸上自衛隊中央音楽隊の奏楽のもと

## 実施された。

2月8日から2月25日の18日間、6名(注1)の遺骨収集団がインドでの収集活動で収容した2柱のご遺骨と、2月13日から2月25日の13日間、15名(注2)の遺骨収集団が東部ニューギニアでの収集活動で収容した17柱の計19柱のご遺骨が遺骨収集団から厚生労働省に引き渡された。

その後の解団式で、長坂厚生労働副大臣は、「先の大戦では、多くの方々が祖国の安泰を願い、愛する家族を思いながら、再び郷土の地を踏むことなく、遠い異郷の地で亡くなられました。衷心よりご冥福とご平安をお祈り申し上げます。厚生労働省としては、『戦没者の遺骨収集の推進に関する法律』に基づき、国の責務として、1柱でも多くのご遺骨が、一日も早くふるさとにご帰還いただけるよう、外務省及び防衛省などの関係省庁や、指定法人である日本戦没者遺骨収集推進協会とともに、一層、力を尽くしていく」と挨拶した。

厚生労働省の発表によると、インドでの戦没者概数は30、000人で収容遺骨概数が19、960柱(令和8年2月25日現在)、東部ニューギニアでの戦没者概数は127、600人で収容遺骨概数が51、430柱(令和8年2月25日現在)である。帰国を果たせない多くのご遺骨が残っている。

- ・一般社団法人 日本戦没者遺骨収集推進協会 2名
- ・一般財団法人 日本遺族会 2名



挨拶する長坂厚生労働副大臣

## 硫黄島及びマリアナ諸島戦没者遺骨引渡式

3月12日、当墓苑で厚生労働省主催による硫黄島及びマリアナ諸島戦没者遺骨引渡式及び遺骨収集団の解団式が航空自衛隊航空中央音楽隊の奏楽のもと実施された。

3月2日から3月12日の11日間、7名(注1)の遺骨収集団が硫黄島での収集活動で収容した14柱、また2月24日から3月12日の17日間、9名(注2)の遺骨収集団がマリアナ諸島での収集活動で収容した57柱の計71柱のご遺骨が遺骨収集団から厚生労働省に引き渡された。

式に参列した長坂厚生労働副大臣は「硫黄島戦没者遺骨収集団」及び「マリ



テナン第2日本人墓地での遺骨収集



硫黄島での遺骨収集

(第一面からつづく)  
 容遺骨概数が10、780柱(令和8年3月12日現在)、マリアナ諸島での戦没者概数は90、800人で収容遺骨概数が40、330柱(令和8年3月12日現在)で、帰国を果たせない極めて多くの遺骨が残っている。

(注1)・硫黄島遺骨収集団7名の構成  
 ・一般社団法人 日本戦没者遺骨収集推進協会 4名  
 ・一般財団法人 日本遺族会 1名  
 ・硫黄島協会 1名  
 ・小笠原村在住硫黄島旧島民の会 1名  
 (注2)・マリアナ諸島遺骨収集団9名の構成  
 ・一般社団法人 日本戦没者遺骨収集推進協会 3名  
 ・一般財団法人 日本遺族会 2名  
 ・特定非営利活動法人 JYMA日本青年遺骨収集団 2名  
 ・特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会 2名

市野会長がお菓子を引き続いて3席主がお茶をそれぞれ墓前に献じ、参列者一同とともに拝礼し、先の大戦での戦没者に対して慰霊の誠が捧げられた。最後に保松奉仕会理事長から春のお茶会開催に対し謝意が示された。

献茶式終了後、3つの薄茶席が前屋に設けられた。苑内では「ぷらイム」& 杵淵三朗氏による演奏(テルミン・大西ようこ氏、ギター・三谷郁夫氏)があり、春の茶会の雰囲気盛り上げていた。春らしいのどかな一日となり苑内は華やかな和服姿の女性たちで一日中賑わい、約350名にのぼる参加者は春爛漫の枝垂れ桜とお茶を楽しんでいた。

### 春の奉仕茶会の開催

4月5日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕茶会(会長・市野昭一氏)主催による「春の奉仕茶会」が開催され、表千家流・芦田隼先生、遠州流茶道・田中宗未先生、及び表千家不白流・木村宗慧先生の3席主で実施された。

市野会長を先頭に、3席主及び各社中の一行が前屋から整然と隊列を組んで六角堂へ進み、献茶式が行われた。まず、



市野会長を先頭に墓前に向かう奉仕茶会の一行



表千家流・芦田隼先生呈茶席



遠州流茶道・田中宗未先生呈茶席



表千家不白流・木村宗慧先生呈茶席

### NPO法人

ピースリング・オブ・グアム・ジャパン  
 「春彼岸参拝」

3月27日、ピースリング・オブ・グアム・ジャパン(理事長・松本平太郎氏)主催の春彼岸参拝が約50名の参列者をもって千鳥ヶ淵戦没者墓苑で行われた。

式典は、全員の黙とうに始まり、松本理事長をはじめ、元衆議院議員・土屋正忠氏及び千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会・保松理事長の各挨拶の後、全員で「ふるさと」斉唱、献花と続き、戦没者への慰霊の誠が捧げられた。

日本から最も近い米国領土である「グアム島」は、先の大戦で「太平洋の防波堤にならん」と20、810名の日本兵が戦い、19、135名の方が亡くなった。しかしながら、日本に帰られたご遺骨は僅か2・5%の500柱余である。

(ピースリング・オブ・グアム・ジャパンのあらまし)(同パンフレットから抜粋)  
 ピースリング・オブ・グアム・ジャパンは、2012年にNPO法人に認定され、英霊となられた方々のご遺骨の早期帰還、過去にあった悲惨な戦争の歴史を風化させず正確に次世代につなぐことによる平和への新たな誓い、未だ戦争の傷跡が癒えぬ地元住民の方々との共同活動を通じた融和と協調、共生を目的に活動を行っている。



挨拶する松本会長

ご遺骨が日本に帰還しないまま、慰霊もされないまま、今もビーチや小路に残る手つかずの戦争の傷跡。美しい海が広がるこの島に観光で訪れたとき、「あ

りがとうございます」「祈りを込め、「平和」であることに感謝を捧げる言葉を口にしていただけることできつと御霊は安らぎます。

### 東京葵ライオンズクラブ 第53回 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 「戦没者追悼慰霊式典」

3月28日、東京葵ライオンズクラブ主催の千鳥ヶ淵戦没者追悼慰霊式典が満開の桜の下、晴天に恵まれ、約200名の参列者を迎えて執り行われた。

式典は午前11時から開始され、式典実行委員長・梅津琢磨氏による開式の辞、全員による拝礼、オペラ歌手・藤田植葉さんによる国歌独唱、引き続き、黙禱、ライオンズ・ヒム(賛歌)斉唱、全国友好葵ライオンズクラブから持ち寄せられた各地の名水による献水の儀、東京葵ライオンズクラブ会長・上村美由紀氏の献辞、江東区立明治小学校卒業生マーチング・バンドの音楽奉奏、参列者全員の献花、樋口千代田区長代理の挨拶、友好葵委員長・伊賀則夫氏の閉式の辞で終了した。

特にオペラ歌手・藤田植葉氏のアカペラによる「君が代」では、その澄み透る歌声が墓苑内の空気をより一層清らかに感じさせ、式典に荘厳さをもたらしていた。

東京葵ライオンズクラブは平和の象徴として昭和48年に結成された。以来、海外で散華され、身元が分からず「自分の生家のお墓に入る事さえできない」ご遺骨を慰霊することこそライオンズクラブの活動の本来の目的であるとの認識のもと、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の慰霊祭が、東京葵ライオンズクラブの主要な活動となり、これまで半世紀の永きにわたって、春には戦没者追悼慰霊式典の開催、秋には会員総出による当墓苑清掃奉仕活動を続けている。



祭壇の全景



献辞を述べる上村美由紀会長



オペラ歌手・藤田植葉さんによる国歌独唱

### 解脱会 令和8年 千鳥ヶ淵戦没者墓苑供養祭

3月29日、晴天の桜満開のもと、解脱会東京第一教区(教区長・廣川剛秀氏)主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑供養祭が参列者約150名をもって執り行われた。

供養祭開始前から前屋で来苑者へも天茶が振る舞われた。定刻の11時25分、教団の鼓笛隊の慰霊演奏で慰霊供養が開始され、一同による「海ゆかば」斉唱、献花・奉納の儀に引き続き、廣川教区長が諷誦文を奏上した。

参列者による天茶供養に引き続き、



少年少女鼓笛隊の演奏



諷誦文を奏上する廣川剛秀教区長



挨拶する廣川貞雄氏

教区の挨拶として廣川貞雄氏、次いで千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会・中村常務理事、実行委員長澤田勝氏の挨拶で供養祭は終了した。

供養祭終了後、前屋前の広場で少年少女鼓笛隊の演奏で退苑する参列者を見送っていた。

この行事は「天茶供養」として知られ、昭和39年から続く解脱会恒例の供養であり、今年で63回目を数える。

同教団では、それぞれの支部が千鳥ヶ淵戦没者墓苑参拝を続けており、解脱会の英霊に対する篤い思いが継承されている。



水交会月例参拝 1月15日



六角堂に昇る朝日

昭和天皇御製碑  
秩父宮勢津子妃殿下揮毫

くのためにのら  
さやげしひとりの  
こととおもへばむねせまり  
くる



水交会月例参拝 2月26日



愛知県田原市遺族会 3月1日



各団体の慰霊参拝



喇叭伝承会 3月15日



喇叭保存会 2月8日



ノースアジア大学学生と教官 3月3日



千代田区海洋少年団 2月14日



本願寺派与板組門推協 3月12日



阿含宗清掃奉仕 3月8日



千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会 3月21日



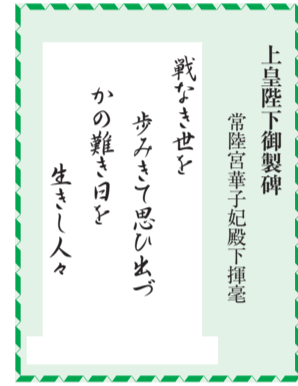
The National WW II Museum March Group 3月24日



楽曲演奏・歌唱と空手演武 3月20日



静岡県浜松市遺族会 3月24日



各団体の慰霊参拝



群馬県沼田市遺族の会 3月26日



ピースリング・オブ・ガム・ジャパン 3月27日



埼玉県川口市遺族会 3月29日



兵庫県姫路市遺族会 3月28日

令和8年度年間主要慰霊行事等予定表
(期間:令和8年4月~令和9年3月)

Table with 4 columns: 月 (Month), 実施日 (Date), 主催団体 (Organizer), 慰霊行事名 (Event Name). Rows include events from April to March, such as '春の奉仕茶会 (終了)', '千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要 (終了)', and '平和祈念公園'.

備考
・東京葵ライオンズクラブ主催の第53回千鳥ヶ淵戦没者追悼慰霊式典は8年3月28日に終了した。
・厚生労働省主催の遺骨引渡式は7月9日(木)、9月4日(金)、11月5日(木)、12月10日(木)、2月18日(木)、3月4日(木)及び3月12日(金)にそれぞれ11時から実施される予定。



平和祈念公園

沖繩における慰霊施設研修
2月24日から26日にかけて、当奉仕会として初めて沖繩の慰霊施設研修を実施しました。理事2名(中村・杉本)で平和の礎、沖繩県平和祈念資料館、ひめゆりの塔、対馬丸記念館などを研修し、関係者との意見交換を通じて多くの知見を得ました。
平和の礎では、戦没者一人ひとりの氏名を刻むことで個人の尊厳を重視する姿勢が示されており、無名戦没者を慰霊する当墓苑の役割と対比し、「名」と「無名」の両面からの慰霊の重要性を再認識しました。また、公園全体として、静謐な空間の中に歴史を伝える工夫がなされており、「静かな祈り」と「歴史理解」を両立させる視点の重要性を感じました。
ひめゆり平和祈念資料館や対馬丸記念館では、体験に基づく展示や子どもに焦点を当てた構成により強い共感を生み、映像等を活用した伝承の工夫も進められていました。戦後80年を超え、いかに若い世代へ記憶をつないでいくかは共通の課題であり、当奉仕会においても今後取り組みを考えてまいります。
さらに、学校団体向けの受入体制や教育プログラムの充実は大変参考となり、当苑においても教材や事前学習資料の体系化の必要性を強く認識しました。
今回の研修を踏まえ、創建70周年を見据えつつ、静かな祈りの場としての価値を守りながら、次世代への継承機能の充実に努めてまいります。

年会費納入に関する御礼とお知らせ
令和8年度の年会費につきましては、早速ご納入いただき、誠にありがとうございました。なお、過去の年会費未納分をご納入いただいた場合は、古い年度の分から順に充てさせていただきます。
何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。
◎奉仕会年度会費納入者(団体・個人)(敬称略、順不同)
小牧市遺族会、高知県遺族会、サンエイト建築企画有限公司、一社・東京郷友連盟、大原妙順、幸村龍一、豊田陽、高市晴通、今井敏、鈴木小弥太、深山明敏、富田喜代志、谷忠義、長澤和一、多田昌司、小黒俊之、坂間輝男、田中延享、柿澤恒、山田フヨ、高梨節夫、登坂岩雄、渡辺俊之、橋本純夫、落合健次、高荷義隆、花田雅弘、松井克彦、平田弘幸、蛭田千秋、橋本邦子、滝沢幹雄、津田章、浦川陽子、岩崎弥生、神山聖子、橋間元徳、和田信之、長谷部邦夫、加藤園栄、堤将純、村田瑞穂、松本義則、黒岩しほ、福田太陸、大沢正、佐藤直辰、和田勝幸、五十嵐久子、内藤忠明、江頭瑞穂、曳田圭子、増田建三、横山靖之、杉浦涼子、伊藤賢、合原佳雄、勝浦美二代、大森昭彦、太田隆子、勝川洋次、片田陽、陽、小池奈美、小林弘子、原嶋亮、清田節子、山根昭、勝呂洋次、小沼芳子、嬉昌夫、水島正彦、服部千里、諏訪和也、室伏孝一、高橋信行、小沼芳子、嬉昌夫、水島正彦、服部千里、土肥俊峰、吉里年和、二俣邦枝、高梨実、藤原信子、荒井紀子、嵐友樹、西川寛光、西川ひろみ、本城典之、塩田益也、新井茂、横山稔、矢嶋正久、中村節子、御園生和彦、長谷部文雄、長野隆、新田光子、中田勝仁、土井貴範、佐藤元康、田村響、新井實沙子、新井秀樹、小林広法、大西康世、小島ゆみこ、柿沼典子、橋本尚理、臺さよか、二宮類四郎、石田亜紀子、細矢雅久、小林健二、斧田靖子、北村息吹、山田恵美子、竹村五夫、小林孝太郎、大野広亮、山口格夫、田浦政彦、田中富士雄、滝川宏子、柴田誠悦、島本昌彦、渡邊守久
◎新入会員(敬称略、順不同) ※(永)は永代会員、(終)は終身会員、(正)は正会員
株式会社カラフルコンテナ(永)、光山拓実(終)、野原亜紀子(終)、山崎敏哉(終)、秦由香里(終)、谷内護(終)、杉山昌之(正)、松村訓明(正)、関八洲生(正)、外間邦子(正)
◎奉納者(団体・個人)(敬称略、順不同)
鎌倉市遺族会、沼田市遺族の会、三島市遺族会、普明会教団、智山青年連合会、解脫会東京第一教区、ピースリング・オブ・グアム・ジャパン、東京葵ライオンズクラブ、水交会、株式会社カラフルコンテナ、帝國華道院研究部、新井勇人・日菜子、Ms.Prommas Prapichaya、廣川貞雄、廣川剛秀、酒井治雄、岩浅博之、澤田國光、二宮類四郎、美山光庸、由美子、河内実、西尾直樹、西尾恵、三宅洋之、外間邦子
◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)
◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)
口原市遺族会、倉敷市遺族会、浜松市遺族会、掛川市遺族会、姫路市遺族会、川口市遺族会、白井市遺族会、クラスノヤルスク遺族会、浄土真宗本願寺派新潟教区、陸自衛生学校、千代田区海洋少年団、板橋区子安クラブ、淑徳学園高等学校、創価大学学生、喇叭保存会、喇叭伝承会、The National WWII Museum March Group
◎清掃奉仕(敬称略、順不同)
阿含宗清掃奉仕、千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会
◎献花台奉仕者(敬称略、順不同)
日新流(小田切博新)、未生流(谷口信甫)、里村紀甫、深谷仁甫、小林美智甫、佐藤紀甫、花古流(今井草悦、浜田草圓)、松風花道会(古澤君水、釜堀恵水、倉持桃水、男鹿澄水)

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

### JYMA(日本青年遺骨収集団)との意見交換会

3月19日、奉仕会は、JYMAで遺骨収集活動を実施している5名の団員との意見交換会を2時間にわたり墓苑会議室で実施した。

JYMAは昭和42(1967)年に発足以来、戦没者の遺骨収容事業と慰霊を未来へ伝承していくことを主な活動とし、その活動の主体はボランティアの大学生である。

本意見交換会には、JYMA側から片庭(学生代表、今村(副代表)、大曾根(事務局長)、谷口(総務部長)及び松原(代表補佐)の5名、奉仕会側から保松理事長以下全常務理事5名が参加した。

本会の狙いは、①戦没者慰霊の現状と課題を共有、②若年層への慰霊継承のあり方を議論、③今後の慰霊活動における連携の可能性を検討の3点であった。

自己紹介の後、JYMA側5名から入団の動機、遺骨収集の体験に基づく現状と課題等の発言があり、奉仕会側からは墓苑の概要と問題点を説明した。

遺骨収集活動の現状や課題について認識を共有するとともに、若い世代への慰霊継承や今後の連携のあり方について活発な意見交換が行われた。特に、SNS(インスタグラム等)を活用した情報発信の重要性や、講演会の開催による支援の拡大、関係機関との連携強化などについて具体的な提案があった。

奉仕会としては、遺骨収集の現場で



意見交換会の様子

活動する学生ボランティアの声を今後の運営に活かす、連携を深めながら慰霊活動のさらなる充実を図りたい。

### 終戦80年、令和7年度感謝状の贈呈

奉仕会は、コロナ禍で中断していた感謝状贈呈を4月5日、満開の桜のもと、春の奉仕茶会にあわせて、11時半から墓苑貴賓室で行った。

受賞者及び功績概要は次のとおり。

- 個人・2名
  - ・ 亀山和子氏(奉仕茶会)・奉仕茶会実行委員会の副委員長として、春・秋の奉仕茶会の実施に貢献、秋季慰霊祭で献茶の儀を担任
  - ・ 翁 玉恵氏・多年にわたる清掃奉仕、関係企業等を訪問し会員増勢に尽力、奉仕会で必要な英語の翻訳支援、休憩所の展示品等の清掃(当日、所用ため欠席)
- 組織・1個団体
  - ・ 一般社団法人 帝国華道院(武藤理春氏)・永年にわたり毎週交代での前屋の生け花献花
  - ・ 鈴木会長が公務により欠席のため、羽毛田副会長が受賞者1名・1団体へ感謝状を全文読み上げて贈呈した。贈呈終了後、受賞者と羽毛田副会長及び全理事が参加して会議室で祝賀会食を実施した。



感謝状を贈呈された武藤さん(右) 感謝状を贈呈された亀山さん

### 墓苑便り(奉仕会だより)

#### 5月6月の献花予定

- 国際華道如心流 新井 礼心
- 国際華道如心流 鈴木 淑峯
- 草翠流 関根 広草
- 松葉流古流 田中 一秀
- 美風池坊 小島 美陽
- 古流松濤会 石井 理顕
- 駿東流 小泉 恵華
- 柴山古流・緑山流 井上 冷美
- 古流正華道 芦沢 千啓
- 京葉古流 小浦 一穂
- 千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭のお知らせ

令和8年10月19日(月) 13時から当墓苑にて執り行います。

各種奉納行事(献茶、御製奉誦、唱歌奉唱等)や自衛隊部隊による拝礼などが予定されています。参加希望の会員の方は、7月号及び9月号に応募の詳細を掲載します。

令和8年度 定時評議員会の予定  
8月5日21日(木) 10時30分...千鳥ヶ淵戦没者墓苑会議室  
事前に関係各位へ細部をメール等で連絡します。

### 編集後記

約3年にわたる本紙編集の任を本号までついに終了し後任者と交代します。これまでご愛読いただいた皆様により御礼申し上げます。

奉仕会に勤務して、先の大戦での戦没者のご遺骨112万柱が未だ海外の戦地で帰国を待ち続けているという悲しい事実を知りました。また、戦後80年を過ぎ、戦没者遺族の高齢化により墓苑への参拝者数や奉仕会の会員数が減少の状況あり、若い世代への戦没者慰霊の継承が強く求められています。

このような状況の中、3月に行なったJYMA(日本青年遺骨収集団)所属の5名の大学生との意見交換会では、彼らの遺骨収集活動を通じた貴重な発言に深い感銘を受けました。また、奉仕会が発刊の小冊子「美しい国・日本、世界の平和」※に寄せられた小学6年生の感想文からも日本の未来への確かな希望を感じることができました。

### ※小冊子の表紙



墓苑休憩所にて配布中

# 宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



- 移動採血車
- ピクニックテーブル
- 宝くじドリームジャンボ絵本
- 宝くじ桜
- 消防団防災学習・災害活動車両
- 一輪車
- パブリックアート
- フラワープランター
- 検診車

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。



この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。